

2021年度 立正大学データサイエンスセンター プロジェクト成果報告書

1. プロジェクト名称 産業構造のネットワーク分析

2. プロジェクト期間 2021年4月1日～2022年3月31日

3. プロジェクトリーダー

氏名	DSC内職位
王 在喆	研究員

4. プロジェクトメンバー

氏名	DSC内職位	氏名	DSC内職位
宮川 幸三	研究員	小林 幹	研究員
	選択してください		選択してください
	選択してください		選択してください

5. 成果の概要

当該年度に実施したプロジェクトの成果について、その具体的内容、意義、重要性等をできるだけ分かりやすく記述して下さい。

小林・宮川・王 (2021) 「産業構造の特性に関するネットワーク分析」(『経済学季報』(立正大学経済学会) 第71巻第1号) では、産業連関表において描写される産業部門間の複雑な取引関係を産業構造であると考え、それを1つの複雑ネットワークとしてとらえ、既存の産業連関データにネットワーク分析の手法を適用して産業構造の特性を客観的な指標から分析することを試みた。具体的には産業部門をノード、部門間の取引をリンクとして産業連関表をネットワーク表現し、2007年日中国際産業連関表をデータとして利用し、発展段階が異なる日中両国の経済を比較分析することにより、発展段階と生産ネットワークの特性の関係性について考察している。

王 (2022) 「日本と中国の産業構造の現状について分析——『2012年日中国際産業連関表に基づく実証分析——』(『経済学季報』(立正大学経済学会) 第71巻第4号) では、2010年以降の中国が消費大国に変貌しつつある現状に鑑みて、国際産業連関分析のクローズド・モデルを利用し、『2012年日中国際産業連関表』を用いて2012年における日中貿易の特性を明らかにすることを試みた。具体的には、2012年においても中間財貿易や「一般機械」の貿易が日本の対中輸出で中心的な役割を果たしており、日本のサービス産業が自国生産の影響を大きく受けており、多くの中国アパレル関係の産業部門が日本から著しい影響を受けている。また、中国の生産は自国のサービス部門に特に影響を及ぼしており、日本の製造業部門、とりわけ機械関係の産業部門が多く影響を受けている。

6. 成果発表

当該年度に発表したプロジェクトの成果（雑誌論文、書籍、学会発表、講演会、研究会、その他）について、その内容を簡条書きで記載して下さい。

1. 小林幹・宮川幸三・王在喆（2021）「産業構造の特性に関するネットワーク分析」『経済学季報』（立正大学経済学会）第71巻第1号、pp. 39-65。
2. 王在喆（2022）「日本と中国の産業構造の現状について分析——『2012年日中国際産業連関表に基づく実証分析——』『経済学季報』（立正大学経済学会）第71巻第4号、pp. 73-104。（近刊）

この成果報告書に記載の内容については、ホームページ等で公開いたします。
成果を公開できない事情がある場合には、その理由を記述して下さい。

※研究成果を公開できない理由